

リスコミ活動のご紹介(除染情報プラザ)【資料4-4】

＜放射線を取り巻く状況について＞……

- 放射線に関する様々な情報が溢れており、時として誤解と混乱が生じる。
- 放射線と日々つきあいながら生活していかざるをえない中で、安心と不安のバランスを保つ努力を県民自ら続け、判断しながら生活を送っている。
- 様々な情報の中で、自分の住んでいるところの除染がいつ行われるのか、放射線の状況がどうなっているのか等、自分に係わる情報を知りたいと思っている人は多い。

＜住民ニーズの傾向①＞…除染に関して、

- 放射線量が高いとの認識により不安を感じられており、再度の除染を求められる。
(事故前の状態を望む声が聞かれる)
- (対応)モニタリングを行い、放射線の状況や、個人で行える方法について説明。

＜住民ニーズの傾向②＞…放射線に関して

- 身近な場所の放射線量を知りたい、日常生活でどのような対処方法があるかアドバイスを求められるといった相談が寄せられる。
- (対応)放射線量をマップにして見える化し、併せて放射線の状況やどう対処すればよいか説明。

＜リスコミ対応で心掛けていること＞……

- モニタリングは詳細に行い、現在の放射線の状況に則して専門的な観点から丁寧に説明。
- 抱えている不安が具体的に引き出せるよう、コミュニケーションに努める。
- 被ばく低減のため、日頃の生活で対処できることや、自然減衰などによる将来の予測を説明。

＜難しいこと、悩ましいこと＞……

- 放射線の健康影響などに関する受け答えは慎重に対応。
- (課題)放射線の健康影響の専門家との連携

リスク事例①

放射線量が高いのは屋根の影響ではないかという住民の方の心配への対応。

→ モニタリング調査を行い、屋根の汚染は少なく、放射線の影響は小さいことを説明。



屋根表面の詳細測定



モニタリング装置による影響調査

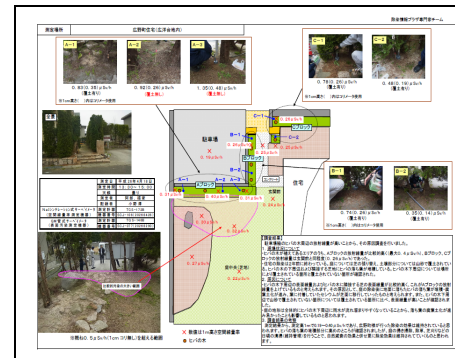
リスク事例②

除染した後も放射線量が高いのではないかと心配により、避難した住民の方が戻らないといった相談への対応。

→ 自治体からの要請で地域のモニタリング調査を行い、放射線の影響やどう対処すればよいか説明。



住宅周辺の放射線影響



結果の見える化

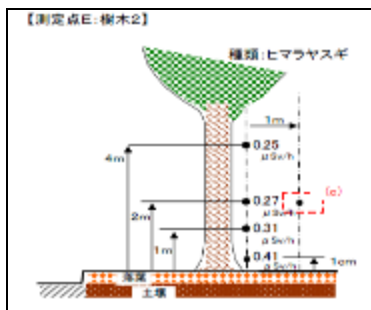
リスク事例③

放射線量が高いのは樹木からの影響ではないかという住民の方の心配への対応。

→ モニタリング調査を行い、樹木からの放射線の影響は少ないことを説明。



樹木の影響調査



結果の見える化

<リスクの観点からのインプリケーション>..

リスクをスムーズに進めるためには、住民の方から信頼されることが大事。

そのためには、専門性を有する第三者的機関(者)の役割が重要だと思われる。

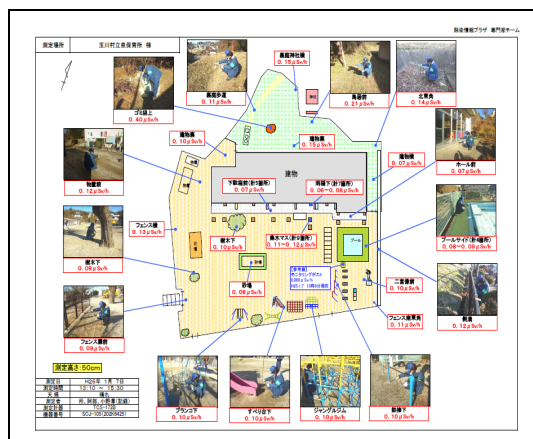
リスク効果を高めるためには...

- ・現場での詳細なモニタリング
- ・専門的な知見の活用
- ・結果を分かりやすく丁寧に説明

リスコミ事例④

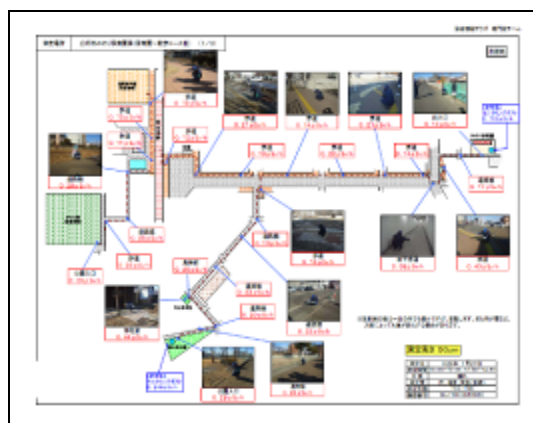
幼稚園・保育園にて、身近な放射線量をマップにして分かりやすく伝えることで、保育士や保護者の放射線に対する不安の軽減に対応。

園内のモニタリングマップ例



＜線量の高い場所のアドバイス＞・・・
応急的に土のうを積んだり、その場所に近寄らない、長居をしない等

散歩コースのモニタリングマップ例



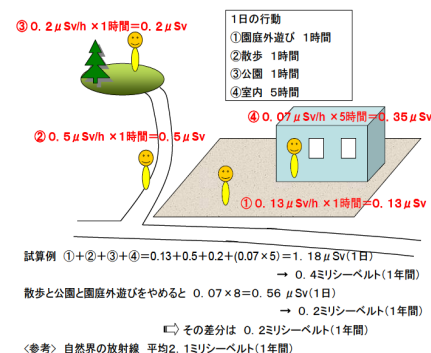
＜線量の高い場所のアドバイス＞・・・
線量の高いところには近づかない、長居をしないのほかに、散歩コースの変更の検討等

保育士さんとの意見交換



説明に活用した資料

屋外活動の有り無しで生じる空間線量の差(例)



＜保育士の方からの意見・感想＞

※実施した30施設からの意見

- ・全体的な線量の状況を知ることができ、余分な心配がなくなった。
- ・園内で気になる場所があったが、状況を知ることができた。
- ・気をつけるところなど日常生活での対応について、考える材料ができた。
- ・マップは、場所と数値が目に見えて分かりやすいため、保護者への説明もしやすい。

＜リスコミの観点からのインプリケーション＞・・・

リスコミが成立するためには、関係者の間でリスク情報を共有し、一緒に対策を考えていくという姿勢を示すことが大事。

・・・現在の被ばく状況など、自分に関わる情報に基づく説明により、関心が高まり対話が深まる。

まとめ(これまでの経験から感じたこと)

- 住民の方が抱えている不安や心配を受け止め、現在の放射線の状況をよく理解したうえで、丁寧に応えることが大事。
- 放射線に対する捉え方は人それぞれ異なることから、測定した値について、単に伝えるだけでなく、その意味合いについての解説を加えることが大切である。
- 身近な場所の放射線量を知ることで、日常の生活でできる工夫を考えるキッカケにつながる。その際、個人の受ける被ばく線量に着目し、その影響が大きい場所を中心として、被ばく線量を低減するためどう対処すればよいか伝えることが望まれる。
- 具体的な数値を測定し、お知らせする場合には、関係する自治体と情報共有を密にし、その後のフォロー体制を組んで対応している。
- 日頃感じている心配や不安に対して、気軽に相談が行える「専門機関(家)」が身近にいることが安心感の醸成につながるのではないかな。